



日本植物分類学会 ニュースレター

No. 83

Nov. 2021

今号のトピックス

- ☐ 2021 年度の講演会のお知らせがあります → 6 ページ
- ☐ 日本植物分類学会第 21 回大会のご案内があります → 8 ページ

目 次

諸報告

- 2022 年度第 21 回日本植物分類学会賞
(学会賞・奨励賞) 受賞者の決定 2
- 東アジア国際植物分類学シンポジウム
"East Asian Plant Diversity and Conservation 2021" の報告 3
- 東アジア国際植物分類学シンポジウム 2021 に参加して 5
- "The 9th East Asian Plant Diversity and Conservation
— Virtual Symposium 2021" に参加して 5

お知らせ

- 2021 年度日本植物分類学会講演会のお知らせ 6
- 日本植物分類学会第 21 回大会 (神奈川大会) および
2022 年度総会のご案内 8
- 会費納入のお願い 12

- 会員消息 12

諸報告

2022 年度第 21 回日本植物分類学会賞 (学会賞・奨励賞) 受賞者の決定

学会賞選考委員会委員長 瀬戸口 浩彰

本年度の学会賞と奨励賞については 5 名からなる学会賞選考委員会にて、各候補者の研究業績、当学会や社会への貢献などを選考の基準にして協議を行い、基本的に全ての委員の意見が一致するように議論を重ねました。その結果、下記のように学会賞と奨励賞にそれぞれ 2 名の方を選出して会長に報告しました。

学会賞 ・角野康郎氏 (神戸大学名誉教授)「日本産水生植物の分類地理学的研究」
・織田二郎氏 (奈良県香芝市在住)「日本産スゲ属についての分類学的研究」

奨励賞 ・新田ジョエル氏 (東京大学 大学院理学系研究科 特任助教)
「シダ植物の群集形成および系統分類学的研究」
・柿嶋聡氏 (国立科学博物館 分子生物多様性研究資料センター 特定非常勤研究員)
「多面的アプローチによる植物の多様化と生活史進化に関する研究」

授賞理由は以下の通りです。

【学会賞】

角野康郎 氏

角野康郎氏は、大学院生の頃から水生植物の分類や生態学的研究に取り組み、日本産水生植物の分類地理学的研究を進めてきた第一人者であります。新種や日本での分布初記録の種もたくさん報告してこられました。これらの集大成は「日本水草図鑑」(1994)、「ネイチャーガイド 日本の水草」(2014)として出版され、多くの方が利用しています。また、絶滅危惧種と外来生物の問題が注目され始めた 1980 年代からいち早くこの問題に取り組み、日本最初のレッドリスト「我が国における保護上重要な植物種の現状」(1989)の作成に携わるとともに環境省におけるレッドリストや外来生物対策に関わる委員として、生物多様性保全の活動を現在まで続けておられます。とりわけ水生植物には絶滅危惧種と外来種が多いことから、その生態的特性や生態リスクの研究を進め、学界だけでなく社会への情報発信にも尽力されてきました。日本植物分類学会においても、編集委員、評議員、絶滅危惧植物専門委員会委員長などを歴任しました。さらに 2013 年から 2016 年の 4 年間は会長を務められ、本学会の運営にも大きな貢献をされました。大学を退職後にも引き続き水草に関わる学術と普及啓発活動に関わっておられます。このように、角野康郎氏の植物分類学と本学会への貢献は多大なものであり、学会賞に値するものであります。

織田二郎 氏

織田二郎氏は、カヤツリグサ科スゲ属を中心とした分類学的研究を精力的に続けてこられ、当学会の英文誌・和文誌を含む植物分類学の研究雑誌で多くの論文を発表されてきました。そして、今までに 14 の新分類群を記載され、植物分類学の発展に貢献されました。また、織田氏は、長年培った形態・生態・染色体の研究手法に加え、近年では自ら分子系統解析を行うなど、分類学的問題の解決に取り組まれています。スゲ属研究では、近畿スゲの会を主宰され、すげの会が出版している雑誌「莎草研究」編集委員を務めるなど、日本のスゲ属研究を牽引されてきました。さらに、近畿植物同好会の副会長、奈良県レッドデータブック策定植物等分科会委員、奈良県十津川村村史編纂委員会専門調査員、奈良植物研究会植物誌幹事なども務め、フロラ研究においても尽力されています。また京都大学博物館 (KYO) における標本整理にも関わり、例えばスゲ属や愛媛県の植物研究に取り組まれた故 得居修氏のご家族から寄贈された 15,000 点の標本について再同定とラベルの作製を 5 年間以上にわたって進めて収蔵されました。このように、織田二郎氏の植物分類学への貢献は、学会賞に値するものであると考えられます。

【奨励賞】

新田ジョエル 氏

新田ジョエル氏は、太平洋諸島のコケシノブ科のシダ植物を中心とした分類や進化に関する研究を精力的に行われてきました。特に世界に広く分布するコケシノブ科のウチワゴケ (*Crepidomanes minutum*) の研究では、東アジアから太平洋にかけての広い地域のサンプルを用いて、DNA 解析、形態形質、倍数性、生殖様式の解析から、その種内構造の複雑な進化の一端を明らかにされています。また近年では、太平洋諸島やコスタリカのシダ植物の DNA バーコーディングに関する研究や、シダ植物の配偶体の機能の多様性に関する研究、着生シダ植物の孢子体と配偶体の間の生理学的特性の差異と生育環境の関係に着目された研究も行われています。これらを含む多数の研究成果を国際的な英文誌に発表されており、その業績は日本植物分類学会奨励賞に十分値すると思います。

柿嶋聡 氏

柿嶋聡氏は、日本列島で多様化したテンナンショウ属やカンアオイ属の系統進化や生態に関する研究を活発に行われてきました。伊豆半島におけるテンナンショウ属の大規模な交雑現象を分子マーカーにより明らかにするとともに、テンナンショウ属やカンアオイ属の多様化の重要な要因として、送粉者相の違いによる生殖隔離の存在を見出し、成果をあげています。また、沖縄島産のイセハナビ属コダチスズムシソウの地域集団が、6 年周期で一斉に開花し枯死する 1 回繁殖型多年草であることを定量的に明らかにし、その進化・維持における捕食者飽和説、受粉効率説の重要性を示しました。野外でのフィールド調査を起点とし、系統や生活史、送粉生態など多面的にアプローチする研究姿勢や、これまで多数の原著論文を国際的な英文誌に発表してきた業績は、日本植物分類学会奨励賞に十分値すると思います。

東アジア国際植物分類学シンポジウム

"East Asian Plant Diversity and Conservation 2021" の報告

国際シンポジウム準備委員会委員長 池田 博

2021 年 10 月 29 日から 30 日にかけて、国際植物分類学シンポジウム "East Asian Plant Diversity and Conservation 2021" がオンラインで開催されました。もともと昨年 (2020 年) に韓国で開催される予定だったものが、コロナウィルスの蔓延に伴い延期されていたもので、韓国植物分類学会が中心となって Web 会議システム Webex を使って実施されました。

口頭発表は 4 つのセッション (1. 東アジアにおける植物の系統と進化, 2. 東アジアにおける植物多様性と植物地理, 3. 集団遺伝学, 4. 植物の保全と植生学) に分けられ、合計 23 題の講演 (日本からは 6 題) がありました。発表はその場でパワーポイントを使って発表するか、事前に録画しておいたビデオを流す方式でした。時に通信障害により発表が途切れたり、音声が届かなかったりした場面もありましたが、大きなトラブルにはなりません。発表内容はどれも興味深いもので、発表後には活発な質疑応答がなされていました。

ポスター発表もオンラインで行われ、参加者は大会 HP からポスターセッションのコーナーに入り、見たいポスターをクリックしてじっくり見る、というシステムでした。全部で 17 枚 (日本からは 12 枚) のポスターが掲示されました。2 日間で 2 回設けられたポスターセッションの時間帯には、参加者から発表者にオンラインで質問を送り、発表者は質問に対してすぐに応答することでコミュニケーションが図られました。ポスター発表については、大会主催者により 3 題がポスター賞に選ばれました (内 2 題は日本人が中心となって行われた研究でした)。

今回のシンポジウムは、コロナ禍での開催ということで、全てオンラインで行われました。オンラインで行うことにより、参加者にとっては開催地まで移動する必要がなく、どこからでも参加することができ、旅費も拘束時間も節約することができました。また、発表に対する質問・コメントも比較的気軽にできた

のではないかと思います。主催する側にとっても、オンラインの手はずを整えるのには手間がかかるかも知れませんが、一度準備ができれば、参加登録、発表タイトル・要旨の提出などはほぼ自動で行うことができ、口頭発表では発表者と座長の切りかえを、ポスター発表ではポスターセッションのコーナーを開設しておけばよく、かなりの省力化ができたのではないかと思います。また、懇親会や野外エクスカッションは実施しなかった（できなかった）分、準備などの手間が省かれたと思われます。

一方、このシンポジウムの趣旨には、地理的に近い日中韓の3ヶ国の研究者が集まり、情報交換をするとともに、親睦を深めて将来の発展的研究のきっかけを提供する、ということもありますので、コロナ禍の異常事態とはいえ、対面で意見を交換する機会を設けることができなかったのは残念でした。次回(2023年)は日本側が主催となってこのシンポジウムが開催されます。2年後にはコロナも収束していることを期待して、対面とオンラインのいいところを取り入れ、広く日中韓の研究者が集まることのできるシンポジウムを開催したいと思っています。

最後になりましたが、シンポジウムの準備・実施に関しては、北東アジア生物多様性研究所の Jin-Oh Hyun 博士、成均館大学の Seung-Chul Kim 教授をはじめとする韓国植物分類学会関係者の方々に大変お世話になりました。ここにお礼申し上げます。



図1. リモート会場風景。韓国・成均館大学内に設けられた。



図2. 口頭発表風景。発表者は Webex 会議システムを使って発表した。発表しているのは東京都立大学の藤原泰央さん。

ポスター賞受賞者の声

Iwasaki, T., Ebisawa, A., Tamura, Y., Shiga, T., Kučera, J., Zozomová-Lihová, Marhold, K., Li, P., Pak, J.-H., Choi, H. J., Kim, Y.-D., Sabirov, R., Matsuo, A., Tsunamoto, Y., Suyama, Y., Shimizu-Inatsugu, R., Shimizu, K. K. and Kudoh, H. "Eurasian phylogeographic study of a widely distributed plant, *Cardamine impatiens*, based on the genome-wide SNPs by MIG-seq."

ポスター賞、どうもありがとうございました。国内・海外の多くの研究者のサポートを頂きながら、神奈川大時代に指導した学生2人が中心となって取り組んでくれた研究で受賞することができ、大変嬉しいです。これを励みに、ユーラシアのジャニンジンの分布域内で起こった特殊な適応進化の解明へと研究を更に発展させていきたいと考えています。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。(岩崎貴也氏より)

Sata, H., Shimizu, M., Iwasaki, T., Ikeda, H., Soejima, A., Kozhevnikov, A. E., Kozhenikova, Z. V., Im, H.-T., Jang, S.-K., Azuma, T., Nagano, A. J. and Fujii, N. "Phylogeography of the East Asian grassland plant, *Viola orientalis* (Violaceae), inferred from plastid and nuclear restriction site-associated DNA sequencing data."

この度はポスター賞ありがとうございました。まさかこのような賞をいただけるとは想像もしていなかったのうれしく思います。これを励みに今後も満鮮要素の起源や歴史を明らかにすべく研究を続けていきたいと思っています。会員の皆さまにはご協力をお願いするかもしれませんが、その際はどうぞよろしくお願いいたします。(藤井紀行氏より)

東アジア国際植物分類学シンポジウム 2021 に参加して

石川直子（大阪市立大学）

私は 2021 年 10 月 29 日・30 日に韓国 Sungkyunkwan University 主催で開催された『東アジア国際植物分類学シンポジウム 2021（日中韓 3 国シンポジウム）』に参加させて頂きました。今年は COVID-19 感染拡大の影響でオンライン開催であったため、韓国に渡航することなく自分のデスクに座ったままでの参加となりました。シンポジウムは、明るく軽快な進行のもと終始和やかな雰囲気包まれており、リラックスした気持ちで参加することができました。またシンポジウムのホームページには、エクスカーションの代わりとして用意された 14 種類のスライドショー（Virtual Field Trips）があり、鬱陵島や済州島の希少種のほか、ロシアやモンゴルの植物や調査風景の映像を楽しむこともできました。

研究発表はどれも大変興味深いものばかりでしたが、特に中国の Dr. Min Deng さんらによるユーラシア大陸のブナ科分類群についての研究発表が印象に残りました。内容は、高解像度 DNA 解析とドングリ化石の形態データをもとにして系統地理学的なシナリオを推定したもので、その豊富なデータ量と時間的・地理的スケールの大きさに圧倒されました。また私自身は、日本固有の絶滅危惧種で異質 4 倍体のハクサンオオバコと、その近縁種で同じく異質 4 倍体であるオオバコの浸透交雑についての研究を発表させて頂きました。これは倍数体の集団遺伝学解析を上手く行いたいという思いから国内サンプルのみを対象として始めた仕事ですが、このシンポジウムへの参加は、「東アジア」という広い枠で研究を展開させることについて考えるよいきっかけになりました。

今回の日中韓 3 国シンポジウムは再来年に日本で開催されるとのことでした。そのころには COVID-19 が収束していることが期待されると思います。今回はこのシンポジウムが、日本・中国・韓国の研究者がオンラインで顔と顔を合わせての楽しい交流の場となることを願って止みません。

"The 9th East Asian Plant Diversity and Conservation – Virtual Symposium 2021" に参加して

李 忠建（京都大学大学院理学研究科）

今回のシンポジウムでは、東アジアに分布する植物の分類と進化、植物多様性と植物地理、集団遺伝学、そして植物保全と植生科学をテーマに、中国・韓国・日本の研究者及び学生が意見を交換できました。今回のようなオンラインの場でのコミュニケーションは簡単ではないと言われますが、座長の先生方の力もあって、最新の解析手法や地道な努力の集大成など、刺激的な研究内容を伝え・受け取ることができ、言語の壁を越えて熱心な質疑応答がなされていたことが印象に残っています。時には、今後の共同研究を予感させるやり取りも見ることができ、水面下でも今後の展開について話し合いがあったことと思います。私事としては、このような国際シンポジウムで口頭発表するのが初めてで非常に緊張したとともに、PC のスペック不足で発表中に 2 度もフリーズしてしまうという災難に見舞われてしまったのですが、スタッフの方々が助けてくださり、無事に発表を終えることができました。いただいた質問やコメントは、今後の研究内容にとって有意義だったのはもちろんのこと、「今後もしっかり研究を進めてほしい、楽しみにしている」という期待も感じられ、大変ありがたいものでした。

次の大会を楽しみにしつつ、本シンポジウムを準備・運営して下さった全ての方々に、御礼申し上げます。

お知らせ

2021 年度日本植物分類学会講演会のお知らせ

講演会担当委員 高山 浩司

2021 年度の日本植物分類学会講演会を大阪学院大学で開催いたします。新型コロナウイルスの感染拡大防止対策として、受付での検温、手指のアルコール消毒、間隔をあけての着席をお願いします。講演会場は十分な広さがあります（定員 288 名の階段教室）。皆様お誘いあわせの上、ぜひご参加ください。

なお、Web 会議システムを用いたオンライン配信も同時に行う予定です。

参加方法に関わらず、以下のサイトからの事前登録にご協力ください。オンラインでの参加をご希望の方には、参加登録後にメールにて接続方法を連絡します。締め切りは 2021 年 12 月 15 日（水）です。参加者多数の場合は、早期に締め切らせていただく場合がございます。

新型コロナウイルスの影響等により、会場での開催が中止となる場合には、オンラインのみでの開催となります。開催方法が変更になる場合は、登録メールアドレスに 2021 年 12 月 16 日までに連絡をいたします。

参加登録：<https://forms.gle/6SEbVJZEfKvP4MPt5>



【日時】2021 年 12 月 18 日（土）午前 10 時 00 分～午後 5 時 00 分

【プログラム】

- 10:00–10:10 ご挨拶 村上 哲明（会長）
- 10:10–11:00 石川 直子（大阪市立大学）「オオバコのかたちの進化－奈良公園における矮化現象について－」
- 11:00–11:50 鈴木 雅大（神戸大学）「日本産紅藻類の分類学的研究」
- (11:50–13:10 昼食)
- 13:10–14:00 中濱 直之（兵庫県立大学）「絶滅危惧植物の過去・現在・未来－博物館標本と域外保全集団を用いた集団遺伝解析－」
- 14:00–14:50 酒井 章子（京都大学）「花に見る ♂ の都合・♀ の事情」
- (14:50–15:10 休憩)
- 15:10–16:00 藤浪 理恵子（京都教育大学）「シダ植物小葉類の二又分枝と根と茎の進化」
- 16:00–16:50 村上 哲明（東京都立大学）「シダ植物の日本新産種や希少種の配偶体での相次ぐ発見」
- 16:50–17:00 ご挨拶 林 一彦

【講演会場】

大阪学院大学 2 号館地下 1 階 2 号教室（02-B1-02 教室）

〒564-8511 大阪府吹田市岸部南 2 丁目 36 番 1 号（電話：06-6381-8434）

*オンラインのみの開催に変更した場合は、大阪学院大学では開催しません。

【会場までのアクセス】

JR 東海道本線岸辺駅、阪急京都線正雀駅から大阪学院大学までともに徒歩 5 分。

交通アクセス <http://www.osaka-gu.ac.jp/guide/campus/access.html>

キャンパスマップ <http://www.osaka-gu.ac.jp/guide/campus/index.html>

【その他】

参加費は無料です。過密を避けるため、今年度はティーサーバーを設置しません。飲み物等につきまし

ては各自で持参ください。講演会終了後の懇親会は新型コロナウイルス感染拡大防止のため開催いたしません。

【講演要旨】

「オオバコのかたちの進化 — 奈良公園における矮化現象について —」

石川 直子（大阪市立大学）

奈良公園には歴史的にシカが多く、過度のシカ食害により矮化したと考えられる草本植物が多くみられる。特に奈良公園のオオバコは、シカがいない場所に生える普通のオオバコと比較して極端に葉や花茎が短く、さらにその葉や花茎が地面に倒伏するという遺伝的特徴を持つ。本講演では、こうしたシカ食害回避に有効と考えられるオオバコのかたちの進化について、その遺伝的・生理的背景を紹介したい。

「日本産紅藻類の分類学的研究」

鈴木 雅大（神戸大学）

日本産紅藻類は、海産 997 種、淡水産 32 種が知られているが、実体不明なもの、複数種を混同しているもの、海外の種に充てられているが別種と考えられるものなど、分類学的な問題を抱えた種を多く含んでいる。国内外で分類学的研究が進められており、新種、日本新産種が毎年記載、報告されているものの、分類学的検討が必要とされている種は 80 種を超えており、研究は未だ途上である。本講演では、日本の海産及び淡水産紅藻類の分類学的研究の現状と今後の展望について紹介したい。

「絶滅危惧植物の過去・現在・未来 — 博物館標本と域外保全集団を用いた集団遺伝解析 —」

中濱 直之（兵庫県立大学）

絶滅危惧植物の保全において、生育域外保全は有効な手段の一つである。生育域外保全集団は、野生集団が本来持っていた遺伝的多様性のうち、どの程度を保持できているのだろうか。これを明らかにするには、博物館標本が大きな力を発揮する。演者らは、兵庫県で絶滅危惧種に選定されている海浜性植物 3 種（ウンラン、ハマアザミ、マツナ）の 3 種について博物館標本、野生集団、生育域外保全集団それぞれの集団遺伝解析を実施した。本講演では、各種の遺伝的多様性の時間的変遷とともに今後の保全への提言について紹介する。

「花に見る ♂ の都合・♀ の事情」

酒井 章子（京都大学）

雄と雌はお互いがいなければ子を残せない相利的な関係にあるが、雄と雌の利害はいつも一致するわけではない。雌雄間の利害の対立は性的対立と呼ばれ、主に動物で研究されてきた。両性花を持つ植物では、性的対立は一つの花の中に見ることができる。たとえば、花粉を効率よく散布する花の構造は、しばしば柱頭での花粉の受け取りを妨げる。雌雄異株の植物では、動物のものと似た性的対立があるかもしれない。本講演では、いくつかの植物の送粉様式を、性的対立の視点から紹介し、性的対立が多様性に及ぼす効果にも言及したい。

「シダ植物小葉類の二又分枝と根と茎の進化」

藤浪 理恵子（京都教育大学）

シダ植物小葉類はその祖先が約 4 億年前から存在し、古い体制を残していると考えられている。現生の小葉類は根と茎が二又分枝し、根、茎、葉がない前維管束植物の化石にみられる軸が二又状に分かれる形とよく似ている。我々の研究から、現生の小葉類ヒカゲノカズラの根と茎で頂端分裂組織の細胞分裂動態を解析した結果、どちらも分枝の際、頂端分裂組織が 2 つに分かれて新たな根と茎が形成されることが明らかとなり、根と茎は比較できることが示唆された。本講演では、小葉類の根と茎の形態形成と、そこからみえた根と茎の起源について議論する。

「シダ植物の日本新産種や希少種の配偶体での相次ぐ発見」

村上 哲明（東京都立大学）

私の研究グループでは、最近、無性芽による栄養繁殖によって基本的に配偶体世代だけで生存し続けている日本産シダ植物を野外で探索し、DNA 情報を活用して、それがどの種の配偶体か同定する研究を行ってきた。その結果、イトシシラン、ミカワコケシノブ、タキミシダ、ヒメサジラン、カラクサシダといった希少種の配偶体が広く生育していることを見出した。また小笠原諸島でも、日本未記録種の *Antrophyum plantagineum*（ナンヨウタキミシダ）の配偶体が互いに 40 ～ 200 km も離れた島々に生育していることを明らかにした。

【問合せ先】

電話：075-753-4131（授業等で不在場合があります。ご容赦ください）

メール：takayama_at_sys.bot.kyoto-u.ac.jp（_at_ を @ に置換してください）

日本植物分類学会第 21 回大会（神奈川大会）および 2022 年度総会のご案内

大会会長 勝山 輝男

日本植物分類学会第 21 回大会を 2022 年 3 月 3 日（木）～6 日（日）の日程で、横須賀市文化会館（神奈川県横須賀市）にて開催いたします。皆様の参加を心からお待ちしております。

【本会場】

横須賀市文化会館（横須賀市深田台 50） 大ホール、市民ギャラリー

口頭発表、ポスター発表、総会、授賞式、受賞記念講演、公開シンポジウム

詳しいアクセスはリンクをご参照ください。 <https://www.yokosuka-bunka.info/>

【各種委員会会場】

横須賀市自然・人文博物館（横須賀市深田台 95） 講座室

編集委員会、評議委員会

詳しいアクセスはリンクをご参照ください。 <https://www.museum.yokosuka.kanagawa.jp/>

【日程】

2022 年 3 月 3 日（木）～3 月 6 日（日）

3 月 3 日（木） 午後 各種委員会、評議委員会（横須賀市自然・人文博物館 講座室）

3 月 4 日（金） 午前 口頭発表（大会発表賞エントリー者）

午後 口頭発表（一般）・ポスター発表

3 月 5 日（土） 午前 口頭発表（一般）

午後 ポスター発表（一般）・総会・受賞講演

夜 懇親会（セントラルホテル）

3 月 6 日（日） 午前 口頭発表（一般）

午後 公開シンポジウム

【第 21 回大会ホームページ】

<https://jsps21.e-jsps.com/>

発表・参加申込および発表要旨提出の方法や大会プログラムなど、第 21 回大会の情報を随時アップロードいたします。

【問合せ先】

〒238-0016 神奈川県横須賀市深田台 95 横須賀市自然・人文博物館内
日本植物分類学会第 21 回大会実行委員会
TEL. 046-824-3688 FAX. 046-824-3658
E-mail : jsps2022@gmail.com

お問い合わせの際はできるだけ電子メールをお使いください。メールのタイトルは「大会問合せ」として下さい。

【発表・参加申込方法】

発表・参加申込は、第 21 回大会ホームページ (<https://jsps21.e-jsps.com/>) (2021 年 11 月 25 日以降公開) にある Google フォームからお申込みください。ご不明な点がございましたらメールの件名を「大会申込確認 (参加者氏名)」とし、jsps2022@gmail.com までご連絡ください。

本大会では郵送による申込みを実施いたしません。インターネットをご利用できない方は大会実行委員会まで早めにご相談下さい。

〒238-0016 神奈川県横須賀市深田台 95 横須賀市自然・人文博物館内
日本植物分類学会第 21 回大会実行委員会
TEL. 0468-24-3688 FAX. 046-824-3658

大会には日本植物分類学会会員・非会員を問わずにご参加いただけますが、口頭発表およびポスター発表の演者（実際に発表する方）は、特に大会実行委員会から依頼した場合を除き、会員に限ります。非会員の演者（実際に発表する方）は、申込と同時に日本植物分類学会への入会手続きをお願いします。

【大会参加・発表申込の締切日】

- 1) 演者（実際に発表する方）：発表・参加申込 / 大会・懇親会参加費、弁当代等振込
1 月 21 日（金）
 - 2) 演者以外：参加申込 / 大会・懇親会参加費、弁当代等振込
1 月 28 日（金）
- 1 月 29 日（土）以降は大会・懇親会参加費が増額されますので、なるべくお早めにお申し込みください。また、1 月 29 日（土）以降は振込まず、当日参加をご利用ください。

【大会発表賞へのエントリー】

大会発表賞へのエントリーは、日本植物分類学会の会員で、パーマネント・ポストについていない研究者（年齢制限はありません）で、筆頭発表者かつ演者（実際に発表する方）本人に限ります。大会発表賞へエントリーされる方は Google フォーム上の項目に従って選択してください。

【発表要旨の提出】

発表要旨はワードファイルで作成のうえ、「要旨提出フォーム」へアップロードしていただきます。1 月 21 日以降、発表申込者にメールで「要旨提出フォーム」へのリンクおよび要旨のひな型等をお知らせします。

【発表要旨提出の締切】 2 月 4 日（金）24:00

【参加費】

- 大会参加費（発表要旨集 1 冊代金を含む）
 - 1) 事前申込（1 月 28 日（金）までの振込 一般 4,500 円、学生 2,500 円
 - 2) 当日参加申込 一般 5,500 円、学生 3,500 円

● 懇親会参加費：

- 1) 事前申込（1月28日（金）までの振込） 一般 7,000 円，学生 4,000 円
 - 2) 当日参加申込 一般 8,000 円，学生 5,000 円
- 3月4日（金），3月5日（土），3月6日（日）の昼食弁当代 各 1,000 円

【参加費送金先】

郵便振替口座番号：00170-3-767949

口座名義：日本植物分類学会大会実行委員会

郵便局備え付けの振込用紙にて，振込金額の内訳（大会参加費，懇親会参加費，弁当代〔注文する日付を明記〕等）を通信欄に必ず記入の上，ご送金ください（振込手数料はご自身でご負担ください）。また，振込者と参加者は同一にしてください。**参加申込の際に，振込日と振込郵便局をご入力いただきますので，振込を終えてから参加申込を行ってください。**

銀行等から振込む場合はゆうちょ銀行の受取口座として下記内容をご指定下さい。

店名（店番）：〇一九（ゼロイチキュウ）店（019）預金種目：当座 口座番号：0767949

【懇親会】

セントラルホテル 横須賀市若松町 2-8 会場ダイヤモンド（最大 300 人収容）（お酒持込可）

新型コロナウイルスの影響等により懇親会の開催が中止となる場合には連絡をいたします。

【昼食】

予約制でお弁当を用意いたします。事前申込の際に一緒にお申込みください。なお，大会会場に隣接する博物館周辺にはキッチンカーを手配いたします。また，会場最寄りの横須賀中央駅周辺にも飲食店があります。

【公開シンポジウム】

菌類から植物までをテーマにした公開シンポジウムを予定しております。一般公開，参加無料です。詳細は大会ホームページや次号ニュースレターでお知らせいたします。

【発表の要領】

● 口頭発表

プログラム上の発表時間は，講演 12 分，質疑応答 3 分の計 15 分です。ただし，次の発表者への交代をスムーズにするために，14 分 30 秒で 3 鈴を鳴らします。3 鈴が鳴りましたら，次の方への交代をお願いいたします。

口頭発表の際には液晶プロジェクターを使用しますが，発表用パソコンは各自でご用意ください。HDMI 端子，あるいは D-sub 端子のどちらかが有るパソコンであればそのまま接続が可能です。Apple 製品等，特殊な接続ケーブルが必要な場合は，各自でご用意ください。

パワーポイントのスライド作成にあたっては，色覚バリアフリープレゼンテーション法に関するサイト <http://cudo.jp/cbf/> を是非ご一読ください。

● ポスター

ポスター用ボードは縦 180 cm x 横 90 cm のサイズです。貼り付け用の鋏などは大会実行委員会で用意いたします。ポスターは 3 月 4 日（金）13 時までに貼り付けし，3 月 6 日（日）12 時までに撤去してください。

【託児について】

現時点で託児室の開設は予定しておりませんが，ご希望の場合は 12 月末日までに大会実行委員会までご相談ください。希望者が複数いらっしゃる場合は開設を検討いたします。

【宿泊施設】

会場最寄りの横須賀中央駅周辺に宿泊施設はございます。また、横浜駅から横須賀中央駅までは 30 分程度となります。本大会では宿泊場所のあっせんは行いません。各自で宿泊場所をご確保ください。

横須賀市の主な宿泊施設 (2021 年 4 月現在)

① セントラルホテル

横須賀市若松町 2-8 (徒歩 10 分) (横須賀中央駅) 下車徒歩 1 分
http://www.centralwedding.com/

部屋数 / 定員 166 室 / 252 人
チェックイン 14:00
チェックアウト 10:00
駐車場 有料 60 台
TEL 046-827-1111



② ホテルパレス

横須賀市若松町 1-11 (徒歩 10 分) (横須賀中央駅) 下車徒歩 2 分
http://www.hpalace.sakura.ne.jp/

部屋数 / 定員 31 室 / 45 人
チェックイン 16:00
チェックアウト 10:00
駐車場 なし
TEL 046-827-3000



③ ホテル横須賀

横須賀市米が浜 2-7 (徒歩 10 分) (横須賀中央駅) 下車徒歩 5 分
http://www.hotelnewyokosuka.co.jp/hotel_yokosuka/

部屋数 / 定員 80 室 / 102 人
チェックイン 14:00
チェックアウト 11:00
駐車場 有料 8 台 (予約制)
(他、近隣提携駐車場有)
TEL 046-825-1111



④ ホテルニューヨコスカ

横須賀市本町 1-12 (徒歩 10 分) (横須賀中央駅) 下車徒歩 5 分
http://www.hotelnewyokosuka.co.jp/hotel_newyokosuka/

部屋数 / 定員 200 室 / 244 人
チェックイン 14:00
チェックアウト 11:00
駐車場 有料 6 台 (先着順)
(他、近隣提携駐車場有)
TEL 046-820-1111



⑤ メルクユールホテル横須賀

横須賀市本町 5-27 (徒歩 10 分) (横須賀中央駅) 下車徒歩 7 分
http://mercureyokosuka.jp/

部屋数 / 定員 160 室 / 320 人
チェックイン 14:00
チェックアウト 11:00
駐車場 有料 239 台 (提携駐車場)
TEL 046-821-1111



⑥ ホテルハーバー横須賀

横須賀市入久野 2-7 (徒歩 10 分) (横須賀中央駅) 下車徒歩 2 分
http://www.hotel-harbour.com/

部屋数 / 定員 81 室 / 123 人
チェックイン 15:00
チェックアウト 11:00
駐車場 有料 15 台 (予約制)
TEL 046-822-0001



⑦ ホテルニューポートヨコスカ

横須賀市小川町 2-13 (徒歩 10 分) (横須賀中央駅) 下車徒歩 11 分
http://www.hotelnewyokosuka.co.jp/hotelnewportyokosuka/

部屋数 / 定員 155 室 / 310 人
チェックイン 14:00
チェックアウト 11:00
駐車場 隣接提携駐車場有 (360 台)
TEL 046-828-1111



⑧ 観音崎京急ホテル

横須賀市北本 2-18 (徒歩 10 分) (横須賀中央駅) 下車徒歩 10 分
http://www.kannon-kyoku.jp/

部屋数 / 定員 60 室 / 177 人
チェックイン 15:00
チェックアウト 12:00
駐車場 140 台
TEL 046-841-2200



⑨ 京急 E×イン横須賀リサーチパーク

横須賀市光岡 7-2 (徒歩 10 分) (横須賀中央駅) 下車徒歩 5 分
http://www.keikyuein.co.jp/hotel/yokosuka-yp/

部屋数 / 定員 67 室 / 140 人
チェックイン 15:00
チェックアウト 11:00
駐車場 50 台
TEL 046-847-3910



【大会会場へのアクセス】

- ・本会場 (横須賀市文化会館 大ホール) ・ポスター発表会場 (横須賀市文化会館 市民ギャラリー)
- ・各種委員会会場 (横須賀市自然・人文博物館 講座室)

いずれも近接するエリア内に位置しております。下の案内図をご参照ください。

●公共交通機関

- ・京浜急行線「横須賀中央」駅 西口改札から徒歩 10 分
- ・JR 横須賀線「横須賀」駅から京急バスで「文化会館前」下車 徒歩 5 分

のりば①「衣笠駅 (衣笠十字路)」行 (系統: 須 1)

のりば②「横須賀市民病院」行 (系統: 須 3), 「大楠芦名口」行 (系統: 須 4), 「長井」行 (系統: 須 5), 「三崎口駅」行 (系統: 須 8), 「YRP センター」行 (系統: 須 11)

●車

- ・横浜横須賀道路「横須賀 IC」もしくは「衣笠 IC」から 15 分

専用駐車場 (有料) があります。駐車料金の減免を希望される方は大会実行委員会までお知らせください。

カーナビ利用時は「横須賀市文化会館」と入力すると駐車場入口へ案内されます。



【大会参加の各締切】

区分	項目	締切
発表する人 (演者)	大会参加費 / 懇親会 / 昼食弁当代の振込 一般 4,500 円 / 7,000 円 / 1,000 円 学生 2,500 円 / 4,000 円 / 1,000 円	発表申込より前
	発表・参加申込	1 月 21 日 (金)
	発表要旨提出	2 月 4 日 (金)
参加する人 (演者でない共同発表者を含む)	大会参加費 / 懇親会 / 昼食弁当代の振込 一般 4,500 円 / 7,000 円 / 1,000 円 学生 2,500 円 / 4,000 円 / 1,000 円	参加申込より前
	参加申込	1 月 28 日 (金)
当日参加の人 (1 月 29 日以降は当日参加をご利用ください)	会場受付で参加申込・支払 大会参加費 / 懇親会 一般 5,500 円 / 8,000 円 学生 3,500 円 / 5,000 円	

本大会は、現地開催に向けて準備を進めております。今後の新型コロナウイルスの状況によっては開催形態の変更の判断をせざるを得ないかもしれませんが、情勢を踏まえつつ可能な限り良い大会が開催できるよう努力してまいります。

会費納入のお願い

会計幹事 國府方 吾郎

2022 年度 (2022 年 1 ~ 12 月) の会費 (前納制) を、2021 年 12 月末までに納付してください。

- 先に和文誌と一緒に送付した振替払込書をご利用下さい。
- 先に和文誌を送付した封筒の宛名ラベルに「納入済み年度」と未納会費 (2022 年度分を含む) を表示しています。2022 年度分まで納入済みになるよう、「会費」に表示されている金額をお振込みください。「会費」に「自動引落」と表示されている場合、自動振替となります (引落予定日: 2022 年 2 月 26 日)。
- 4 年以上会費を滞納されている方は、規約第 10 条 (2) に基づき除名を行っております。

ご不明の点があれば、本ページの下に記された会計幹事までご連絡ください。健全な学会運営にご協力いただきますよう、お願い申し上げます。

会員消息

■住所変更

設楽 拓人 193-0843 東京都八王子市廿里町 1833-81 (国研) 森林研究・整備機構 森林総合研究所 多摩森林科学園

■逝去

松井 透 氏はお亡くなりになりました。深く哀悼の意を表します。

■以下の会員の連絡先をご存知の方は、会計幹事までお知らせください

稲垣 (塚原) 小百合、大塚 隆之、大西 威慶、神谷 健輔、木本 行俊、境野 圭吾、清水 孝浩、高田 史朗、中田 憲吾、野添 翔悟、福田 拓実、松井 眞治、森 早苗、森本 苑良、柳 丈陽、山路 風太、吉永 真澄

入会申込、住所変更、退会届、会費納入、購読申込などは下記へご連絡ください。

〒305-0005 茨城県つくば市天久保 4-1-1

国立科学博物館 植物研究部

日本植物分類学会 國府方 吾郎 (会計幹事)

Phone: 029-853-8423, Fax: 029-853-8998

E-mail: kaikei@e-jsps.com

会 費: 一般会員 7,000 円, 学生会員 3,000 円,

団体会員 8,000 円

郵便振替口座番号: 00120-9-41247

加入者名: 日本植物分類学会

令和 3 (2021) 年 11 月 20 日印刷

令和 3 (2021) 年 11 月 25 日発行

編集兼 神奈川県横須賀市深田台 95

発行人 横須賀市自然・人文博物館

山本 薫

発行所 茨城県つくば市天久保 4-1-1

国立科学博物館植物研究部

日本植物分類学会

* ニュースレターに掲載された記事の著作権は日本植物分類学会が管理いたします。